

# 日本が誇る 「国宝・四大絵巻」に迫る

物語などを絵で書きあらわし、巻物の状態にした絵巻物。その中でも平安時代末期に描かれた「源氏物語絵巻」「伴大納言絵巻」「信貴山縁起絵巻」「鳥獣人物戯画」は日本の絵巻物の傑作です。いずれも国宝に指定され、美術的価値は言うまでもなく、当時の世相を映し出す貴重な歴史資料でもあります。

各回それぞれの絵巻物に精通した専門家を招き、その魅力に迫ります。全4回講座(1回ごとの受講も可)

【受講日程】 特定金曜日 (2/25、3/4、18、25)  
13:00~14:30 ※3/4は15:00~16:30

【受講料】 2ヵ月(4回)分 11,880円(税込)  
各1回のみ 3,300円(税込・登録料不要)

【持ち物】 筆記用具

表紙・中面左上:  
国宝「鳥獣人物戯画 甲巻(部分)」  
京都樽尾山高山寺蔵  
裏面左:国宝 信貴山縁起絵巻  
尼公の巻 犬と猫(部分)  
信貴山朝護孫子寺提供(レプリカ)  
裏面右:国宝 源氏物語絵巻 柏木三(部分)  
中面右下:国宝 源氏物語絵巻 竹河二  
徳川美術館蔵



55周年  
記念キャンペーン  
新規入会の方全員に  
550ポイント  
プレゼント  
3月末まで  
有効中

詳細は下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。  
※受講料には資料管理費が含まれています。  
※一部の講座の受講料には音楽著作権使用料が含まれています。  
※内容・日程は変更になる場合がございます。ご了承ください。  
※講座により募集締め切りが異なりますので、お問い合わせください。  
※お申込みの人数によっては、開講中止となる場合がございます。予めご了承ください。

中日文化センターへ  
初めてご入会される方は、  
別途登録料550円(税込)が必要です。



名古屋・東 中日文化センター

〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル7F  
☎0120-53-8164  
10:00~19:00(日曜日は17:00まで)



「鳥獣戯画」の謎に迫る

寅年を迎えて

「信貴山縁起絵巻」と毘沙門天信仰

日本が誇る  
「国宝・四大絵巻」に迫る

2月  
新講座

国宝 源氏物語絵巻の魅力  
伴大納言絵巻を読み解く



## 「鳥獣戯画」の謎に迫る

2022年

2/25(金)

13:00~14:30

京都国立博物館研究員 井並林太郎



ウサギやカエルの生き生きとした姿が有名な絵巻「鳥獣戯画」。よく知られた傑作ですが、実は誰が描いたか、どんな意味が込められているかなど、わからないことだらけなのです。近年の修理や展覧会での最新の成果をもとに、謎解きの手がかりをお伝えします。

絵巻の中でも最もよく親しまれ、世界的にも知られる国宝「鳥獣人物戯画」(京都・嵯尾山高山寺蔵)。平安時代後期から鎌倉時代初期に制作され、甲乙丙丁の4巻からなる。甲巻は擬人化された動物を描き、乙巻は実在・空想上を合わせた動物図譜となっている。丙巻は前半が人間風俗画、後半が動物戯画、丁巻は勝負事を中心に人物が描かれている。その表現技法から「日本最古の漫画」とも称される。

## 伴大納言絵巻を読み解く

2022年

3/18(金)

13:00~14:30

明治神宮ミュージアム館長 黒田泰三



国宝「伴大納言絵巻」は絵巻の中の絵巻とも称され、また日本絵画の最高傑作と非常に高く評価されています。そこで本講演では、「伴大納言絵巻」をじっくり鑑賞し、その美術的価値を理解していただき、さらに最近の研究によって解明され始めたいくつかの謎について考察します。

伴大納言絵詞(ばんだいなごんえことば)とは、応天門の炎上をめぐる大納言・伴善男の陰謀、その露見と失脚の物語を、生き生きと描いた平安時代末期の絵巻物。後白河法皇が常磐光長に描かせたと推定される。冒頭の詞書は失われているが、内容は「宇治拾遺物語」の「伴大納言、応天門を焼く事」で補うことができる。

## 「信貴山縁起絵巻」と毘沙門天信仰 寅年を迎えて

2022年

3/4(金)

15:00~16:30

信貴山玉蔵院貫主 野澤密孝



庶民の姿や犬猫の姿をユーモラスに描いた「信貴山縁起絵巻」。主人公は10世紀に活躍された命蓮上人です。物語の背景にある仏教の教えを踏まえながら、歴史的資料としても貴重な絵巻物を解説します。

毘沙門天王の聖地として聖徳太子により創建されたと伝えられる信貴山朝護孫子寺(しぎさんちょうごそんじ)に伝わる、平安絵画の名品として知られている信貴山縁起絵巻。鉢が空を飛び米俵が舞い上がる、剣をまとう童子が大空を駆けめぐるといった摩訶不思議なストーリーが次々と展開する構成など、現代のアニメーションに通じる面があると言われています。

## 国宝 源氏物語絵巻の魅力

2022年

3/25(金)

13:00~14:30

徳川美術館学芸部部長代理 吉川美穂



国宝「源氏物語絵巻」は、『源氏物語』を絵画化した現存最古の物語絵巻で、平安の王朝文化を象徴する名画の一つです。『源氏物語』からどの場面が選ばれ、どのように絵画化されたのかを紐解きつつ、詞書の書風や料紙装飾、絵巻のたどった歴史、最新の科学的調査、修復の成果などを紹介して、その魅力に迫ります。

徳川美術館所蔵の国宝「源氏物語絵巻」は『源氏物語』を絵画化した現存最古の物語絵巻。もとは3巻の卷子装だったが、保存と公開の観点から額面装に改められた。80余年を経て額面装による弊害が生じたため、2016年から5年にわたる保存修復を行い本来の卷子装に戻した。2020年に全15巻の修復が完成。